臨床研究コーディネーター（CRC）の
対人関係能力とストレス対処能力の実態調査

○阿久津 史絵*1*2　日下 和代*3　牛久保 美津子*2　水落 幸*4

*1 株式会社メディカルゲート　*2 群馬大学大学院保健学研究科
*3 共立女子大学看護学部　*4 上武大学看護学部

本演題発表に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

【背景･目的】

CRCは、円滑な臨床試験の実施、被験者の安全性確保、質の高いデータを収集するために、対人関係能力が求められる。

しかし**CRCの教育的背景（医療資格の有無・医療資格の種類）は様々であり、対人関係能力を含むサポート体制は所属機関ごとに異なる**ことが現状である。さらに業務の**対人関係の場面でもストレスが多い**と報告されている。

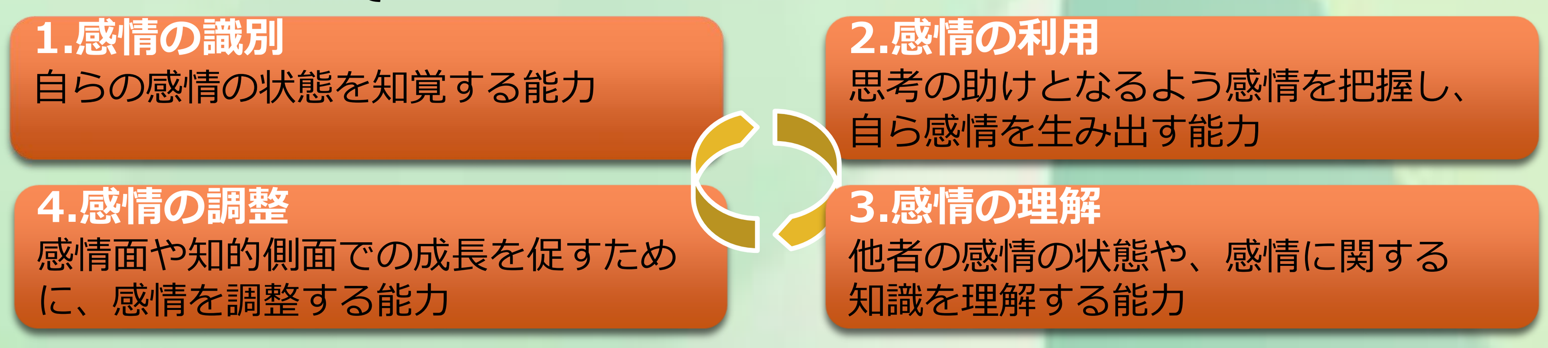
教育的背景（医療資格の有無・医療資格の種類）による
対人関係能力とストレスコーピングの実態を明らかにし
CRCの教育的な背景の違いによるサポート体制について考察する

【方法】

調査対象：「第12回CRCと臨床試験のあり方を考える会議」に参加したCRC
調査期間：平成24年9月1日～9月2日
調査方法：質問紙を配布、回収。
調査内容：①基本的属性
②対人関係能力の評価
[EQ] 高山式の簡易版EQテスト(高山、2004年)
[社会的スキル] Kikuchi's Social Skill Scale・18項目版（以下Kiss-18）（菊池、1988年）
③ストレスコーピングの評価
コーピング尺度(尾関、1993)

【用語説明】

[EQ] とは？
- 感情知能指数（ Emotional Intelligence Quotient）のこと。
- 知能をIQのみでなく、より多面的に捉える概念
- 「自分や他者の感情を理解し調整できる能力」と定義。
- 実践的なコミュニケーション理論
- 人間関係の改善に加え、問題解決能力が高まり、心身の健康も増進されると言われている。
- 4つの構成要素からなり、循環させたり、目的に合わせて組み合わせることでEQ能力を発揮できるといわれている。



[社会的スキル] とは？
- 対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル
- 社会的スキルが高い人はストレッサーへのコーピングがうまくできる

[ストレスコーピング]とは？
- ストレッサーを処理しようとして意識的におこなわれる認知的努力（行動および思考）のこと。
- 問題焦点型、情動焦点型は積極的コーピング、回避・逃避型は消極的コーピングと呼ばれる。

【分析方法】

データの比較：Mann-WhitneyのU検定
相関：Spearmanの順位相関係数、ｐ値
有意水準：5%以下
データの分析：SPSSver.12を使用

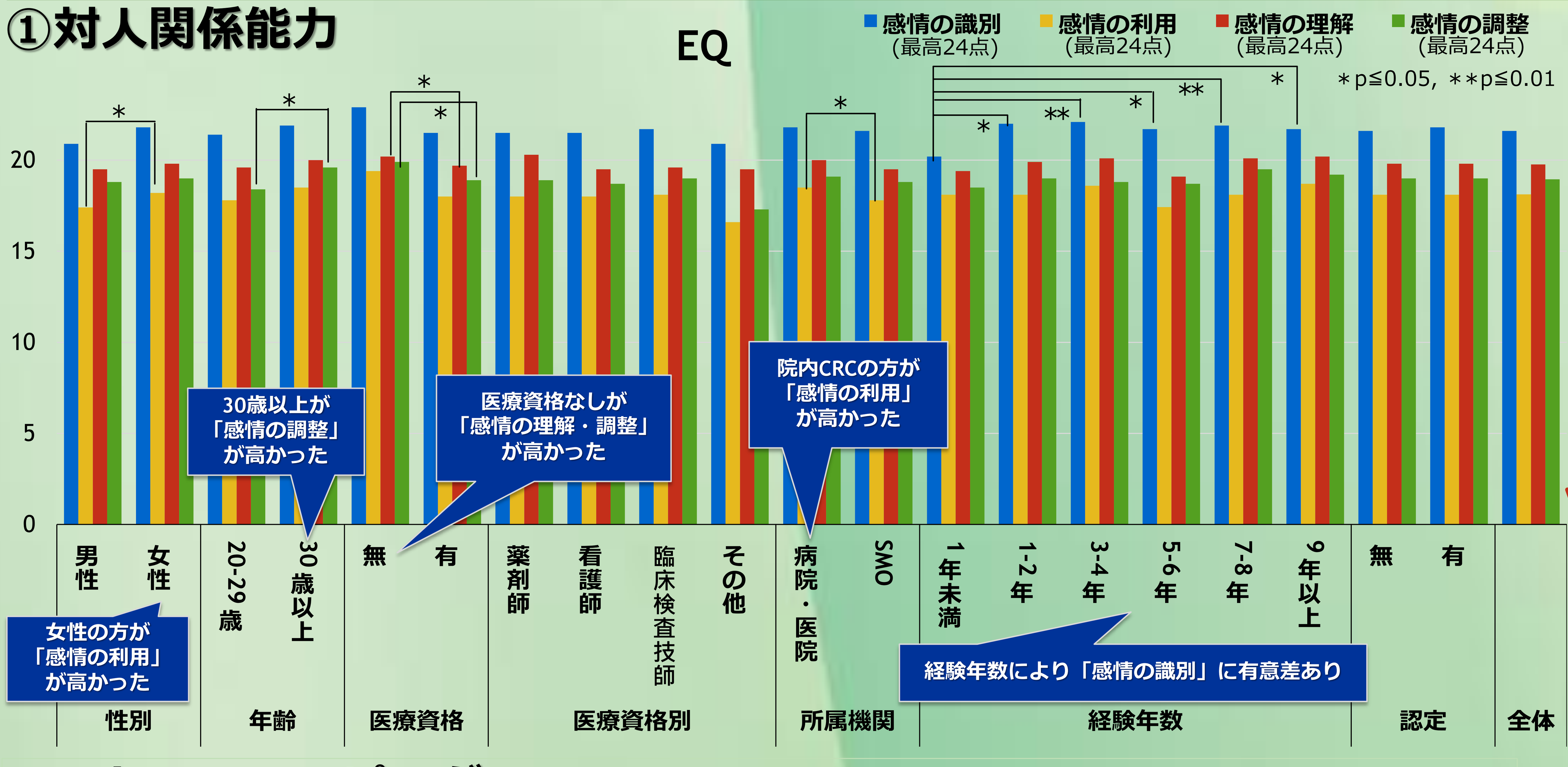
【データの内訳】

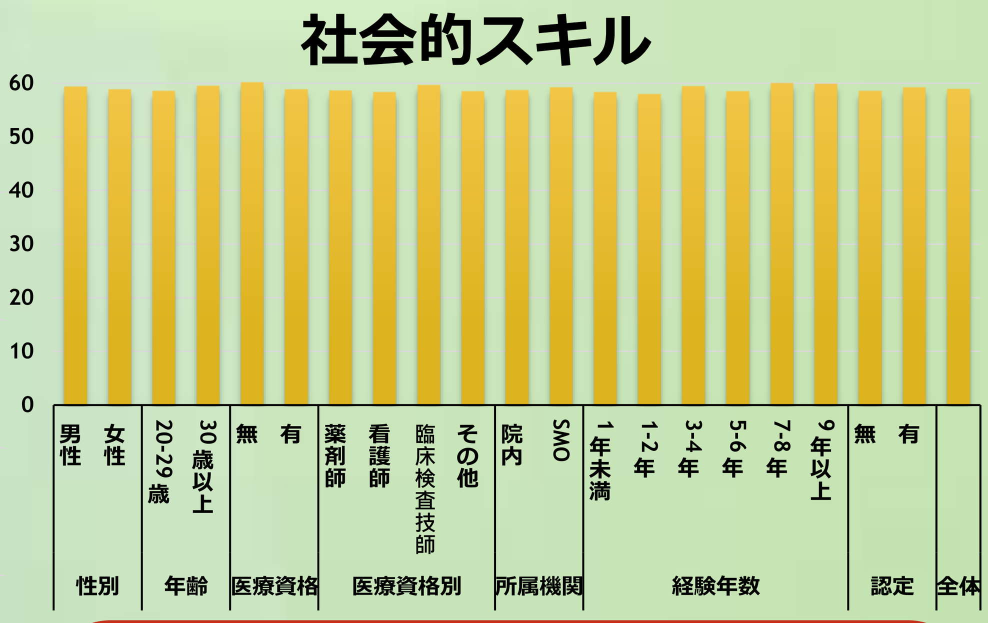
質問紙回収率： 54.8%（296名）

	属性	EQ（296名）	Kiss-18（294名）	コーピング尺度（283名）
性別	男性	39（13%）	39（13%）	37（13%）
	女性	257（87%）	255（87%）	246（87%）
年齢	20-29歳	163（55%）	162（55%）	156（55%）
	30歳以上	130（44%）	129（44%）	125（44%）
	無回答	3（1%）	3（1%）	2（1%）
医療資格	無	23（8%）	23（8%）	21（7%）
	有	268（90%）	266（90%）	258（91%）
	無回答	5（2%）	5（2%）	4（1%）
医療資格別	薬剤師	53（18%）	53（18%）	50（18%）
	看護師	122（41%）	120（41%）	116（41%）
	臨床検査技師	85（29%）	85（29%）	84（30%）
	その他	8（3%）	8（3%）	8（3%）
所属機関	病院・医院	148（50%）	146（50%）	140（50%）
	上記以外	141（48%）	141（48%）	136（48%）
	無回答	7（2%）	7（1%）	7（2%）
CRC経験年数	1年未満	38（13%）	38（12%）	37（13%）
	1-2年	48（16%）	48（16%）	45（15%）
	3-4年	52（18%）	52（18%）	50（18%）
	5-6年	54（18%）	52（18%）	51（18%）
	7-8年	55（19%）	55（19%）	54（19%）
	9年以上	42（14%）	42（14%）	39（14%）
	無回答	7（2%）	7（2%）	7（2%）
CRC認定資格	無	137（47%）	137（47%）	131（46%）
	有	149（50%）	147（50%）	143（50%）
	無回答	10（3%）	10（3%）	9（3%）

【結果】

①対人関係能力

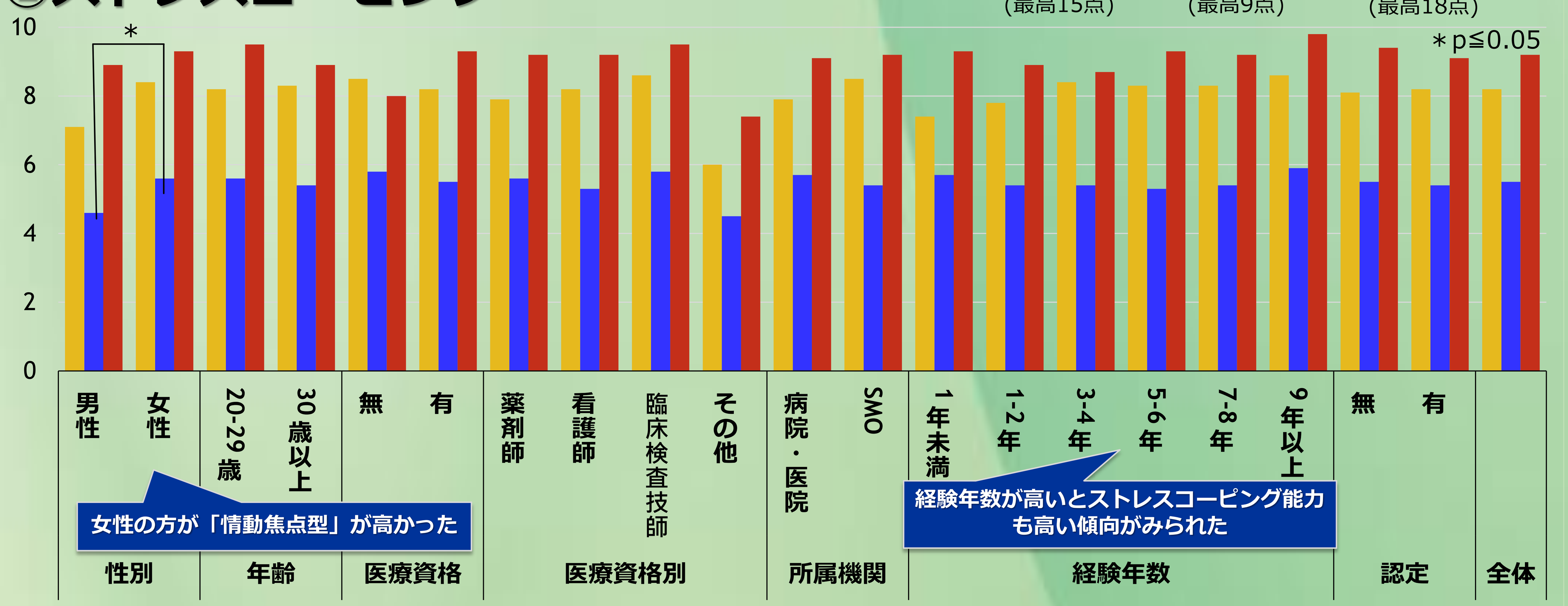




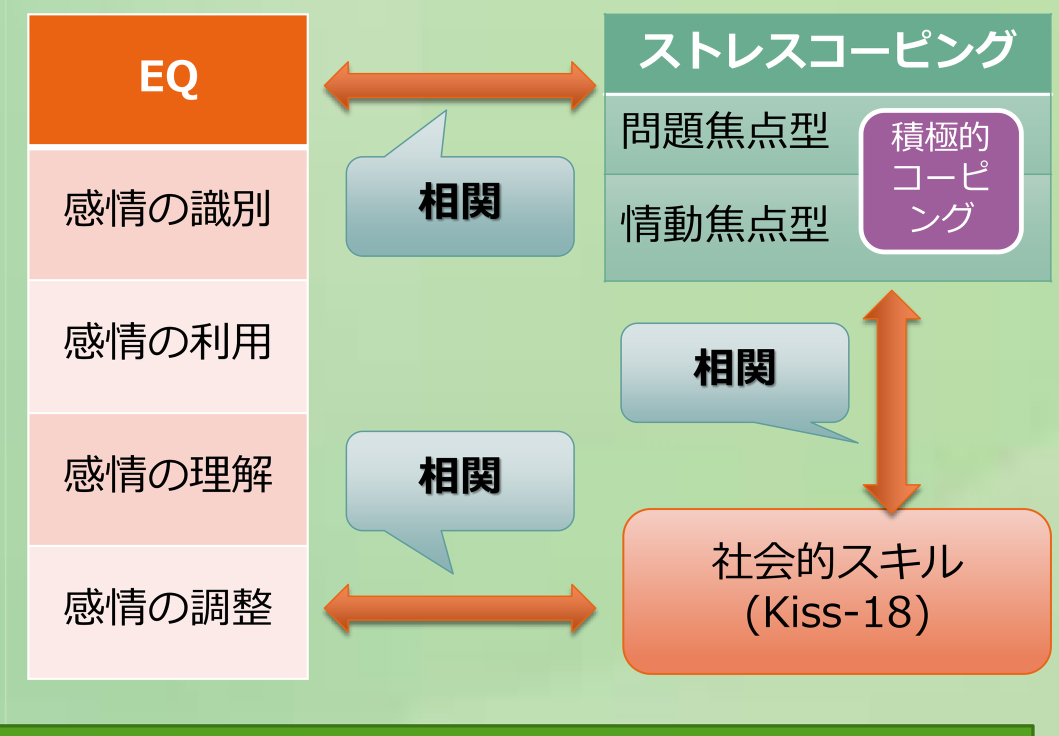
EQ全体として
「感情の識別」が高く「感情の利用」が低い

自分の感情や周囲や相手の感情を知覚して識別する能力は高いが、その状況の判断や課題達成のために自分の感情を作ることや、相手に共感する能力が弱いと言える

②ストレスコーピング



③EQ・社会的スキル・ストレコーピングの関係



【考察】

EQ能力は、教育的背景の違いよりも、経験年数や所属機関による違いが大きいと考えられる。社会的スキルに有意差はみられなかった。対人関係能力とストレスコーピングに関連性がみられた。

対象者を「 CRCと臨床試験のあり方を考える会議」に参加したCRCと限定したため、データの偏りが考えられ、結果を一般化できないことが本研究の限界である。今後は対象者数を増やしCRC全体の調査を行う必要性があると考える。

サポート体制として**経験年数、所属機関による対人関係能力・ストレスコーピングの育成の必要性**が示唆された